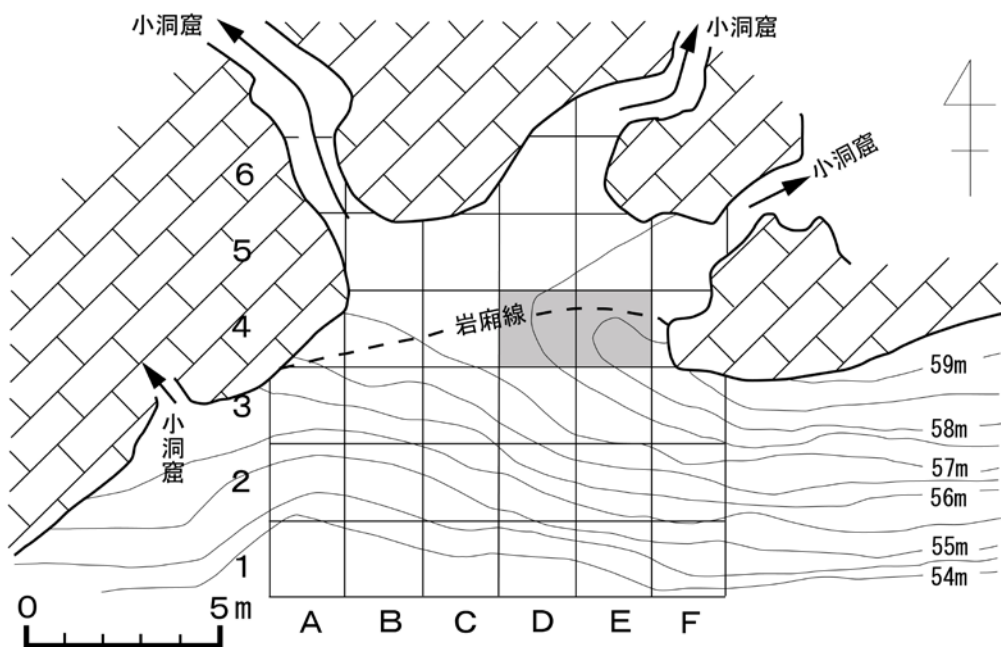




2010 年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 I 期（8月4日～12日）

帝釈大風呂洞窟遺跡（第15次）の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在し、帝釈観音堂遺跡の直上の急斜面上に立地しています。遺跡の標高は約460mで、帝釈川の支流岩屋谷川との比高差は57mあります。洞窟は南に向けて開口しており、間口約11m、奥行き約4m、岩廂（いわびさし）までの高さは3.0～3.5mで、洞窟内外の平坦面の面積は約40㎡となっています。



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図
（網掛け部は第I期の調査範囲）

本遺跡は1996（平成8）年から発掘調査を開始し、今年で15回目の調査となります。第1～第7次調査では遺跡の西半部を調査し、本遺跡が利用された時期と、土層の堆積状況を明らかにしました。第8次調査からは東半部の調査を行っています。これまでの調査では縄文時代、弥生時代、古代・中世の遺物が出土しており、本遺跡は各時代に断続的に利用されていたと考えられています。



写真1 発掘調査風景

昨年度の調査では縄文時代後期（約3000～4000年前）～前期（約5000～6000年前）の層である第3層の発掘を行いました。その結果、東半部の堆積状況を知ることができたほか、縄文時代前期の遺物や遺構が発見されたことで、当時の生活の跡を確認することができました。



写真2 調査で掘った土を水洗するためにケーブルで降ろしているところ

今年度の調査では、昨年度から継続してD・E-4区の調査を行っています。昨年度は度重なる降雨のため作業ができなかったり、遺跡までの土の階段がぬかるんでいたりと様々な困難がありました。今年度の第I期の調査は幸いにも天候に恵まれ、全体を通じてスムーズに作業を進めることができました。おかげで、今期は縄文時代前～早期（6000～8000年前）の層である第4層の調査を終え、第5層の調査に入りました。これから調査していく第5層は縄文時代早期～草創期（8000～12000年前）の層です。第5層の上面からは早々と当時の人が火をたいた跡（焼土面）が検出され、当時の生活の様子が明らかになりつつあります。また大風呂遺跡では、発掘した土を川で篩（ふる）いにかけて、遺物の見逃しがないようにしています。

これからの調査では、本遺跡の縄文時代早期～草創期における生活の範囲

や様子がどのようなものであったかを明らかにしたいと思います。今後の成果にご期待下さい。また、8月末には本遺跡にて現地説明会を行いますので、お誘い合わせのうえ、是非お越しください。 (3年 伯田桂太)

コラム1 『はじめての帝釈峡』

今回、私は初めて帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査に参加しました。初日の活動では自分が何をしなければならないのか分からず戸惑ってばかりでした。しかし、先生や先輩方のご指導のもと、日を増すごとに現場にも慣れ、調査の手順を覚えていきました。ガリと呼ばれる発掘道具を使用する層の掘り下げ作業や、土嚢袋に入れられた発掘現場の土を川の水で篩にかけて小さな遺物を探す「水洗」と呼ばれる作業など、初めて経験する作業ばかりでした。そんな現場での経験の中、一番大変だったのは毎回の現場までの山登りでした。また、宿舎での共同生活では先生や先輩方と共に毎日楽しく過ごすことができました。さらに晴れた日の星空にとっても感動しました。

今回初めての発掘調査を通じて、調査の方法や山登りなどに苦労を感じることもありましたが、日頃の授業では感じることでできない現場の緊張感や、様々な作業を協力し合って行う考古学の良さを実感することができました。

(2年 大村愛海)

コラム2 『始めての発掘調査』

今回僕は、初めて帝釈峡遺跡群の発掘調査に参加しました。発掘調査に行く前は発掘への純粋な期待感と自分なんかで役に立つのかという不安感でいっぱいでした。最初は何一つ分からない現場に戸惑っていましたが、先生や先輩方の優しいご指導のおかげで楽しく一週間を過ごすことができました。もともと僕が専攻を考古学にしようと思ったきっかけは、考古学がフィールドワークのある学問であったからです。ですから今回の発掘調査への参加はとても貴重な体験だったと思います。発掘調査は泊まり込みで一週間程行ったため先生、先輩方、同級生との共同生活となりました。ご飯も自分たちで作り、掃除、洗濯も自分たちで全て行いました。考古学専攻生が横だけではなく縦の繋がりも深く、仲がとても良いのはこういう共同生活があるからだと思います。

発掘調査は今回だけで終わるものではなく、今年もまだ残っていて、来年も参加します。今期は参加者が少なかった分、発掘調査を濃密に体験することができ、早く調査に慣れることができました。この経験をもとに今後も発掘調査に臨んでいきたいと思っています。

(2年 森本卓馬)

人物往来

8月7日 香川県森田さんご一家
8月8日 広島県議会 浅野議員

参加者名簿 (1期 8月4日～8月12日)

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	大学院生	山手貴生 (D2)、谷口早季 (M1)
広島大学文学部生		甲斐麻衣・伯田桂太・東麻衣・松永直輝 (3回生) 大村愛海・森本卓馬 (2回生)

陣中見舞い (50音順)

谷口さん お米
長井さん コーヒー
藤井さん トマト
森田さん ビール・ジュース

また、地元の皆様には、本年度も物心両面でご支援いただいております。感謝々々です。未筆ではございますが、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

編集後記

本年度も帝釈峡遺跡群の調査が始まりました。本年度は、8月上旬から帝釈大風呂洞窟遺跡の、8月下旬から佐田峠墳墓群の調査を行います。今年は天候にも恵まれ、作業は順調に進んでおります。大風呂遺跡の調査の成果は8/28(土)に現地説明会を開催して発表する予定です。お忙しい中とは存じますが、調査の成果を知っていただくまたとない機会ですので、奮ってご参加下さい。また、発掘調査とは直接関係ないのですが、犬瀬の神石高原町歴史民俗資料館の展示を昨年度リニューアルいたしました。帝釈峡でのこれまでの発掘調査の成果を分かりやすく展示していますので、是非そちらの方にも足を運んで下さい。

本年度の調査は始まったばかりですが、これからの成果にご期待下さい。本年度も宜しく願います。
(編集 山手)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>

現地説明会のご案内 —帝釈大風呂洞窟遺跡—

8月28日(土) 14時から現地にて(雨天の場合は神石公民館にて開催)